

平成28年度三重大学教育学部附属幼稚園 自己評価書・学校関係者評価書

		取り組み	評価と達成状況	学校関係者評価	今後の課題と改善
保育		<p>幼児理解に努め、一人一人の幼児の発達を支える幼稚園づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育について全職員あるいは学年で話し合い、月案や行事の検討や幼児一人一人の育ちや支援についての情報交換を行う。 ・幼稚園経営に全教職員が積極的に参加し新しい事にも意欲的に取り組む。 ・効果的で適切な学校運営のため、園務や委員会の見直しを実施するとともに事務業務や会議運営について更なる効率化を図る。 ・「教師としてレベルアップするための基本姿勢」「幼児に接する際の基本姿勢」を意識して保育する。 ・教育活動についての反省を今後の保育につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月案や行事の検討を通して、クラス間、学年間の保育内容とねらいの確認や調整をし、幼児の発達を見通した保育計画を立て実践することが出来た。同時にこの検討会の場で、各クラスの幼児についての情報交換をし、教員がすべての幼児に適切に関わり、援助することが出来た。 ・一人一人の教職員が、自分の担当分掌について計画・提案をすることはもちろん、園全体の動きについても情報を共有することができた。 ・「基本姿勢」については、今年も4月第1回目の園内研修で提案され変更も加えた。全教員が常に意識するように心がけた。 ・日々の保育実践と反省について、職員の中で日常的に話題にすると共に、実践記録、あるいはエピソード記録として記録に残すようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性を明確にした活発な取り組みがなされている。社会の変化をキャッチし、たえず内外の意見に耳を傾け取り組みを推進してほしい。 ・保護者アンケートには肯定的な意見が多く、保護者と幼稚園の双方が信頼度の高い関係であることがわかり評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究や教育実践は、あらかじめ時間と内容を決めた上で充実した取組となるよう絶えず点検していきたい。
		<p>教師間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取組み、それぞれの個性を発揮した豊かな園環境づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同僚性・協働性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も各教員年間2回ずつ、10回の相互参観を実施することが出来た。大学や附属学校の先生方にも参観して頂き、協議会にも参加頂いて有意義な話し合いが出来た。教員同士が互いに信頼し、自分のクラスや保育を公開してリアルタイムに話し合える関係、互いに刺激し合える関係が出来てきた。 ・“一緒に頑張る仲間”の関係は心強い。チームで取り組むという気持ちで、互いに声を掛け合い励まし合い目標を共有する関係を意識してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの保育の資質を高めようと、互いの保育を公開して学ぼうとする姿勢が素晴らしい。 ・小学校、中学校、特別支援学校の教員や大学学部の教員への授業や行事、協議会への参加など、企画や立案は大変だと思うが、しっかり取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人ひとりの保育の質を高めるため、“互いの保育を公開する「相互参観」”の機会を増やしていきたい。
研究		<p>保育研究を活発に行い、その成果を実践に生かし、さらに地域に公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ「夢中になって遊ぶ姿を支える教師の援助」の4年次である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・249名という、附属幼稚園初の方々の方々にお越しいただくことが出来た。 ・幼児期にこそ重要な「体を動かす」という視点の研究を進めることで、なぜそれが重要なのか、他の育ちにどのように繋がっているのか、どのような援助が大事なのかを考え、紀要としてまとめることが出来た。 ・事例検討では、各教員の考えを出し合うことにより、より深く多様な援助のあり方を検討していくことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研究会は今までにない参加者があり、地域の教育推進の拠点となる取組となっている。附属幼稚園は幼児教育の本質を示し、今後も地域の教育研究を引っ張っていく存在であって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は研究の1年次になることから、今年度の研究を総括し、新しい研究の方向と内容を定めていきたい。
連携	大学	<p>大学の附属機関としての役割を積極的に果たす。学部教員との連携の在り方と方法を検討する。学部教員との連携を充実発展させ、さらに本園教員の教育力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の在り方についての検討や教育実習生の指導、卒論の観察やアンケートについての協力・受け入れ体制は、教員全員の共通理解の下、更に充実した。今年度の卒論の協力依頼は、9名に増えた。 ・学部の先生方や学生と連携し、学年ごとに年間1回ずつ、計3回の親子活動、そして学部授業と連携した未就園児保育「コアラの会」を年間15回実施した。 ・連携活動は、年々充実してきているので、今後は研究面での充実を図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学部・附属学校連携授業委員会」の活動、そして連携授業の実施もあり、大学学部の教員との連携とそれに伴う学びが増えていることについて評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教員といろいろな活動の機会、特に研究を共に進めていくという視点での拡充をしていきたい。
	附属学校	<p>「一貫教育推進ビジョン」に基づき、一貫教育推進部会で具体的な研究を推進する。各部会での活動を集約し、カリキュラムの作成に向けて検討を重ねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、各校園の一貫教育コーディネーターがリーダーシップをとり一貫教育の推進に向けて話し合いを重ねたことで、日常的な教員同士の語り合い、活動推進のための声の掛け合い、乗り入れ授業、そして各委員会の活動等が充実した。 ・更にカリキュラムの作成に向けて検討を重ねていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな取り組みの中を意見交換し、互いが高め合おうとする機運があり、今後に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育推進部会を中心とした活動の中で、参観しあったり話し合ったりする機会を増やし、連続した学びの充実を図っていきたい。
	保護者	<p>保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや園の便り、クラス便りでの情報発信 ・クラス懇談会や個人懇談の開催 ・降園時やスマイルタイム時、連絡ノートを通して保護者の相談に応じる ・子育てを語り合う会「おしゃべりカフェ」の開催 ・「おひさまの会」「手仕事の会」等、保護者との連携 ・保護者による園庭紹介パンフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の思い、願い、子どもたちの葛藤や喜び、成長等を必ず含めるようにした、年間30号程のクラス便り、そして行事予定表や家庭連絡等、今年も家庭への連絡物は充実した。 ・時期を大事にした連絡物の作成や配布とともに、今年は、日常や行事の時の幼児の姿を写真にし、登降園の際に保護者が見ることができるような掲示をした。その掲示は、幼稚園理解や登降園時の親子の会話につながった。 ・HPについては、保護者や今後入園を希望している方、教育関係者の方々等、たくさんの方が見ていただいていることを意識して、適宜更新してきた。 ・降園時やスマイルタイムを利用して保護者に積極的に声をかけるようにし、日常的話をする中でわが子に対する親の思いや子育ての戸惑いを引き出し、思いを受け止めながら共に考える機会を作るようにしてきた。 ・今年度は、在園の保護者が子育てを語る会「おしゃべりカフェ」を開催した。年間6回1時間、副園長を交えテーマを決めて話し合うことで充実した時間になり、保護者には好評であった。 ・今年も「おひさまの会」や「手仕事の会」を通して、「イーゼル」や「コサージュ」などを保護者と教師とで一緒に作る事ができた。 ・園庭について保護者と語り合う中で、保護者による園庭紹介パンフレット「工夫がいっぱい！園庭遊具」が完成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係を深めるための実効あるさまざまな取り組みが進められており、保護者支援の実践を高く評価したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス懇談会と個別懇談会の運営の仕方、幼稚園での子どもたちの姿の伝え方など、有意義な保護者への情報の発信について、更に工夫を重ねていく。
地域	<p>未就園児保育「コアラの会」を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は5月から2月まで、年間15回のコアラの会を開催した。 ・スタッフは、大学教員1名、学生11名、地域ボランティア1名、在園児保護者ボランティア5名、非常勤職員1名、副園長であった。 ・今年度は、昨年より回数を5回増やし、5月からコアラの会を開催したため、保護者の方々から「来る場所があっただけよかった」と大変喜ばれた。 ・非常勤職員の存在で、環境の設定や教材の準備など、昨年以上に充実させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育てセンター的役割を発揮できるよう、今後も活動を充実発展させていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援センターとしての機能をさらに発揮するために、来年度からコアラの会の開催回数を15回を17回に増やるとともに、内容をさらに工夫していきたい。 	